

各国製造業PMIの改善等を好感し、新年の株式市場は好スタート

2012年1月4日(水)

第一生命経済研究所 経済調査部

副主任エコノミスト 人見 小奈恵

TEL 03-5221-4523

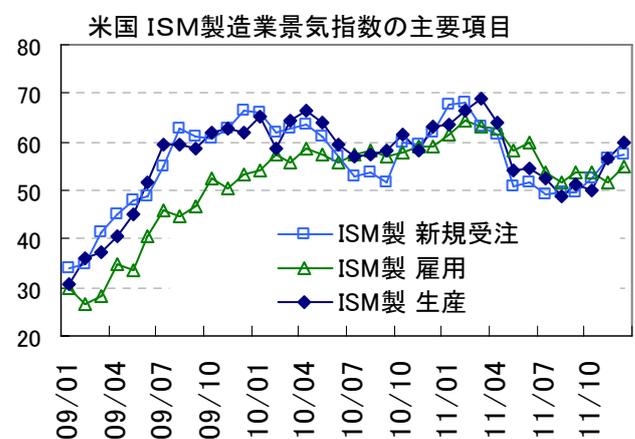
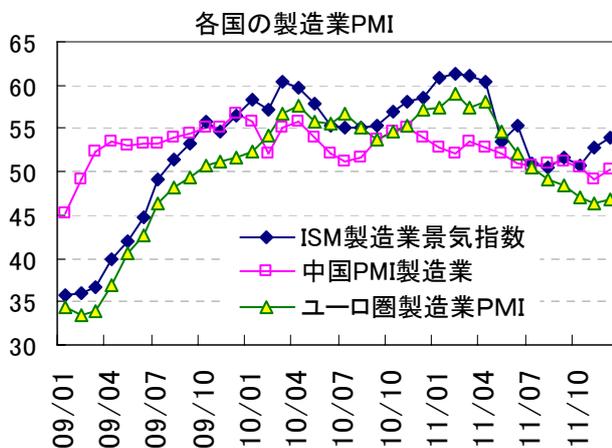
e-mail: hitomis@dlri.dai-ichi-life.co.jp

各国PMIの改善等を好感して、2012年の海外株式市場は堅調にスタート

日本市場が年末年始で休場の間、海外株式市場は堅調なスタートとなりました。アジア市場では香港、韓国、インドネシアなどの主要株価指数が軒並み上昇したほか、欧米株式市場も素材や金融セクターなどを中心に幅広い銘柄が買われました。為替市場では豪ドルやブラジルレアルなどの資源国通貨が大幅高となったほか、ユーロドルも反発しました。ドル安やイラン情勢等から原油などの商品先物価格も大幅高となり、全体的にリスク資産を選好する展開でした。

好材料視されたのは予想を上回るマクロ経済指標の発表でした。新年早々に発表された12月の中国製造業PMIは50.3と予想(49.1)を上回りました。米国では12月のISM製造業景気指数が53.9と予想(53.5)を上回り、6ヶ月ぶりの高水準となりました。内訳をみても在庫が低下する一方、新規受注や生産、雇用が上昇し、先行きの生産活動の拡大を示唆する内容でした。この他、インドや英国等の製造業PMIも前月より改善し、世界景気に対する投資家の悲観的な見方が和らぎました。

ただし、欧州債券市場では依然としてソブリン問題を抱える欧州各国の国債利回りは高水準で推移しました。年末に再び7%台に乗せたイタリア10年国債利回りは、年明け以降若干低下しましたが6.9%台で高止まりし、ギリシャ、スペイン、フランスの対独スプレッドやCDSスプレッドは年末より拡大しました。



(出所) Bloomberg

海外株高の流れを受けて2012年の大発会は好発進も商いは盛り上がりせず

本日大発会を迎えた国内株式市場は、海外市場の流れを受けて大幅高で始まりました。値上がり銘柄数は9割弱とほぼ全面高の展開で、景気敏感株中心に幅広い銘柄に買いが広がりました。特に株高を牽引したのは金融関連株でした。TOPIXの寄与度トップは銀行セクターで、業種別騰落率のトップ3には証券、保険、銀行が並びました。主にヘッジファンドなどの短期筋による買い戻しが日本株を押し上げた格好で、終日堅調に推移し、結局、日経平均株価は前営業日比+104円高の8,560円と約3週間ぶりに8,500円台を回復して引け

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

ました。ただし、売買代金は8,534億円と市場参加者は少なく、日経平均株価の日中値幅はわずか35円弱でした。アジア市場では中国株や韓国株等がマイナス圏で推移するなど強弱まちまちで、多くの投資家が依然として慎重姿勢であることが窺われる相場展開でした。